



佐高 SGH通信 2020

スーパー グローバル ハイスクール

No.7 (2020年6月22日発行)

宇都宮大学のオンライン講座②を受講しました ～SGH マレーシア班の高校生がウェビナー受講～

令和 2 (2020) 年6月17日 (水)16～17時) に、SGH マレーシア班の高校1, 2年生8名が、画面対話を行うアプリであるZoomを使って、宇都宮大学農学部教授の大久保達弘先生の連続講義の2回目を受講しました。今回はマレーシア・サラワクの「教育」と「自然」についてです。多民族共生国家の優等生であるマレーシアならではの教育制度や、種の宝庫と呼ばれるボルネオ島の素晴らしい固有種や「ウォーレス線」、その豊かな自然が急速に失われている現状を学びました。質疑応答のなかで、熱帯林の違法伐採が深刻であること、同時に林業が生活を支える主産業であり、センシティブなテーマです。違法伐採をマレーシアの高校生と共同研究する場合の工夫等について、示唆に富むアドバイスを頂き、有意義な時間となりました。



＜当日の受講風景＞



＜意欲的にメモを取る様子＞



＜リモートで質疑応答を行いました＞



◇高校生の感想から

- 「私は昨年もマレーシアについて研究をしていましたが、今回は特に森林減少問題の現状について理解が深まりました。時間にも限りがありましたが、参考文献を紹介して下さい、今回の講義で今後の糧になるものが沢山収穫できたと思います。」(2年 内田 小温)
- 「マレーシアは先進国入りを目指す一方で大学進学率が大変低く、10%台にとどまっていることに関して質問したところ、新たな発見と今後の展望が見つかったので、昨年の経験を活かしながら、現地の高校生との共同研究を頑張ろうと思いました。」(2年 相田 紘夏)
- 「現在の熱帯雨林の現状やマレーシアの学校制度の厳しさなどを聞いて、興味を多く抱きました。これから本格的に研究内容を考え始めるので、今はマレーシアについての情報を頭に入れようと思いました。また、疑問に思ったことはインターネットなども活用して詳しく調べようと思いました。」(1年 影山 結麻)
- 「教育の面では現状の大学進学率は低く、大学数も少ないが、マレーシアの学校制度として進級の時にテストがあったり、大学予備校があったりと、学生の「レベル」はかなり高い者ではないかと感じました。今回学んだことをこれからの自分の研究に存分に活かしていきたいです。」(1年 岸 愛梨)
- 「私はマレーシアの教育や自然に関する知識が全くなかったので、この機会で新しいことを沢山学ぶことができました。学校の日本のシステムとの相違点や日本とマレーシアの進学率の差などを知ることができました。異文化共存について興味があるので、今日学んだことは大きな糧になります。」(1年 飯塚 梨子)
- 「森林と教育についてより深く知ることができました。特に熱帯林保護の現状についてマレーシア政府、州政府が色々な取り組みを行っているものの、(違法伐採のような)多くの課題を抱えていることが分かりました。今回の講義をこれからの共同研究に活かせるように頑張りたいです。」(2年 原 悠馬)
- 「私は今回の講義で、森林問題について深く知ることができました。(サラワクの)熱帯林問題は、日本も深く関わっており、他人事ではないと痛感しました。また、セントテレサ高校と共同研究するにあたり、センシティブな質問をしないように、事前の準備が必要だと考えました。」(2年 山本 悠貴)
- 「私は今年が初めてだったため、今回の講義では基礎から知ることができました。環境面では、単にマレーシアの改善を考えるだけでなく、日本も関わっている問題であり、教育面では、現状まだ遅れがあり、地域格差もあると感じました。これからの研究で今回の講義を活かして頑張りたいです。」(2年 出井 公人)